

船橋日大駅前防犯ボックスの廃止に関する陳情書

<趣旨>

令和3年10月9日、船橋市坪井公民館にて千葉県主催、船橋市も陪席の「船橋日大駅前防犯ボックス地元関係者説明会」があり、来年3月末をもって防犯ボックスを廃止するとの表明があった。突然の防犯ボックス廃止の通告に当自治会も大きな驚きと治安に対する不安を感じている。

そもそも今回の説明会は、今まで防犯ボックス設置というモデル事業の途中経過報告が住民に理解できるよう示されることもなく、今後モデル事業をどのように進化させていくのか示すこともない県による突然の一方的な廃止通知であり、廃止にかかる住民の声を事前に聞くこともない結論ありきの内容にしか見えず、地域住民として今回の廃止プロセスは全く納得ができない。

同説明会では、防犯ボックス廃止後の対策として、千葉県は船橋市と連携し、防犯カメラやパトロール資機材の整備に対する補助金で対応すると説明。船橋市は市として防犯ボックスを継続することは難しく、現状実施している防犯カメラの設置、資機材購入の補助、青いパトロールカーで対応していくとの説明。交番設置については、千葉県は所轄である県警に伝えていく、船橋市は交番設置の要望を県に続けていくとのことであったが、交番設置に向けた今までの動きや今後の進め方について具体的な説明はなかった。結果として、千葉県、船橋市双方の説明は、実質的に今年度廃止後の代替案となり得る内容では全くなかった。

当自治会は共働き家庭が急激に増え、子供が家に一人でいる時間が長い家庭が多く、女性の駅利用者も多い。さらに駅周辺には学校が多く、子供の駅利用

者も多い当地区において、防犯ボックスは設置以来住民や駅利用者に安心感を醸成する大きな存在になっており、当自治会としては、防犯ボックスには大きな犯罪抑止力効果があるものと考えている。

当地域では従来から交番設置を希望してきたが実現せず、平成28年以降防犯ボックスという形で実態として代替され、当自治会も防犯ボックスの方々と防犯パトロール等を通じ、地域の治安維持に努力してきたが、防犯ボックス廃止により犯罪抑止力効果が減退してしまう状況。また、コロナ禍、更なる治安の悪化が心配される中、まさかこの時期に廃止をするのかという住民の今後の治安への不安は極めて大きい。またその不安は、当自治会だけでなく地域にも広がっている。仮に防犯ボックス廃止により犯罪が増加した場合に行政として責任が取れるのか疑問との住民の声も多い。

千葉県が主体となって設立された防犯ボックス設置モデル事業とのことではあるが、船橋市も設置以降、当然に何かしらの関与をされてきたこと、地域の防犯に対する責任がある中、住民に寄り添ったより積極的な対応をお願いしたい。については、下記事項について陳情する。なお、併せて署名活動も実施していく。

記

1. 従来から地域として要望してきた船橋日大駅前交番設置の実現に向け、最大限努力すること。
2. 交番の設置を実現するまでの間、船橋日大駅前防犯ボックス廃止による地域防犯力低下を防ぐ代替措置を講ずること。

尚、千葉県にも別途陳情書を提出。

以上